

都市再生整備計画 事後評価シート
駿府ふれあい地区

平成26年2月

静岡県静岡市

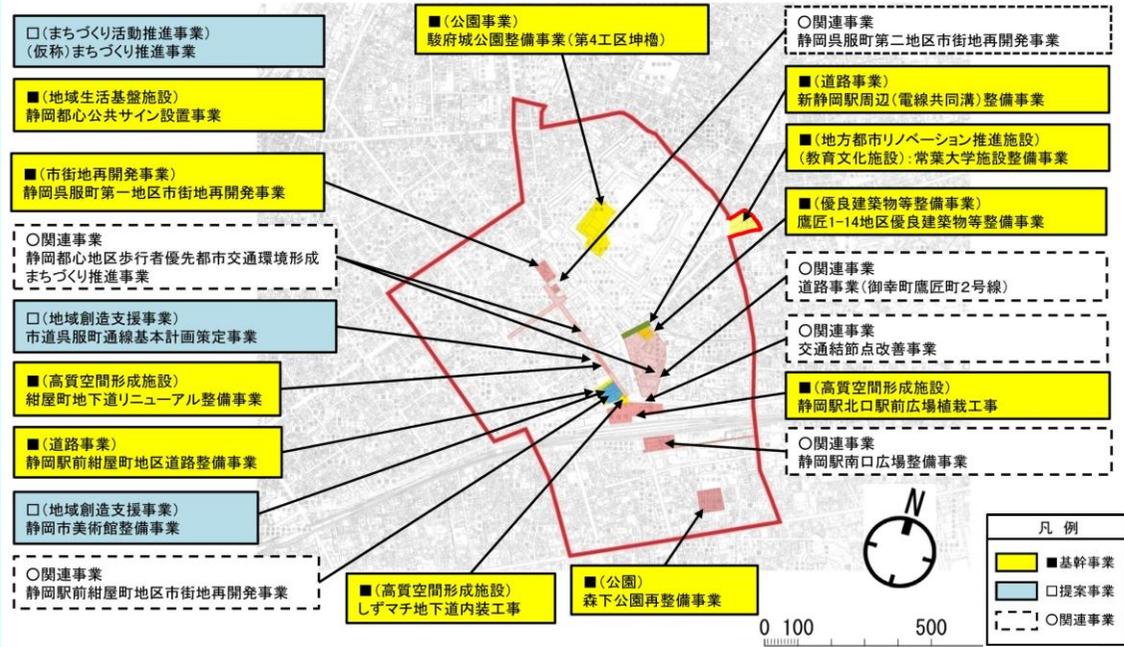
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	静岡県		市町村名	静岡市		地区名	駿府ふれあい地区			面積	249ha		
交付期間	平成21～25年度		事後評価実施時期	平成25年度		交付対象事業費	3947.4	国費率	0.448				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	【道路】静岡駅前紺屋町地区道路整備事業、【公園】駿府城公園整備事業(第4工区坤櫓)、【地域生活基盤施設】静岡都心公共サイン設置事業、【高質空間形成施設】しずま地下道内装工事、【優良建築物等整備事業】鷹匠1-14地区優良建築物等整備事業									
			提案事業	【地域創造支援事業】静岡市美術館整備事業、【まちづくり活動推進事業】(仮称)まちづくり推進事業									
			事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	当初計画から削除した事業		基幹事業	-			-			-			
			提案事業	-			-			-			
新たに追加した事業		基幹事業	①【道路】新静岡駅周辺(電線共同溝)整備事業、②【公園】森下公園再整備事業、③【高質空間形成施設】紺屋町地下道リニューアル整備事業、静岡駅北口駅前広場植栽工事、④【市街地再開発事業】静岡呉服町第一地区市街地再開発事業、⑤【地方都市リノベーション推進事業(教育文化施設)】常葉大学施設整備事業			①歩行者の安全性及び利便性の向上を図るため追加、②施設の老朽化が進んでおり、地元からの整備要望が強いため追加、③静岡駅北口前広場の整備とあわせ周辺地下道の整備を行うため追加、④中心市街地に相応しい機能を拡充するため追加、⑤にぎわいあふれる街まちの形成を図るため追加			⑤地域資源の活用実感性に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。				
		提案事業	【事業活用調査】市道呉服町通線基本計画策定事業			計画変更により道路整備事業として追加したが、計画期間内のハード整備実施は不可能と判断したため、事業内容の一部を提案事業に振り替えた。			影響なし				
交付期間の変更		当初	平成21～25年		変更		-						
		変更	-		-		-						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	地域資源の活用実感性	%	27	H20	46	H25	42	30	△	あり	駿府城公園や大学施設、美術館等の歴史・文化拠点整備により、地域資源の活用実感性の改善に寄与した。特に、駿府城公園利用者は、地域資源に活用について高く実感している。	平成26年6月
	指標2	歩行者空間の快適性実感性	%	45	H20	60	H25	46	61	○	あり	地下道整備や電線共同溝整備事業等により、歩行者空間の快適性が向上した。	-
	指標3	歩行者通行量	人	464,000	H19	400,000	H25	360,000	405,000	○	あり	再開発事業や美術館等の地区内の拠点施設整備と、歩行者空間の整備が相互に作用し、歩行者通行量が増加した。	平成26年6月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	駿府城公園の歴史・文化貢献度	%	-	-	-	-	-	64	-	-	坤櫓整備が整備されたことで、歴史・文化の香り漂うまちの形成に貢献した。	平成26年4月
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡市美術館の指定管理者が企画しているワークショップや講演会などは、概ね目標以上の参加が得られており、市民の文化活動機会が増加している。 ・市役所内における横断的な事業検討体制により、活発な議論が展開された。 												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況			今後の対応方針等						
	モニタリング	指標の達成状況の計測と庁内組織による検討		都市再生整備計画に記載し、実施できた			●	他地区の計画や今後策定される計画においても、適宜モニタリングを実施して行く。					
	住民参加プロセス	①森下公園計画づくりワークショップの開催		都市再生整備計画に記載し、実施できた				①他の事業においても同様に住民との計画作りを行いながら事業を進める。					
		②森下公園の満足度に関するアンケートの実施		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			①②③	②整備完了後に再度アンケート調査を実施する。					
③呉服町通りモール化に係る検討		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				③モール化の実現に向け、地元の理解を得ながら引き続き検討を進める。							
持続的なまちづくり体制の構築	①七間町映画館跡地周辺地区まちづくりガイドラインの作成		都市再生整備計画に記載し、実施できた				①ガイドラインを活用した持続的なまちづくりに向け、体制を強化する。						
	②次期計画策定における市民ワークショップの実施		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			①							
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			②							

様式2-2 地区の概要

駿府ふれあい地区(静岡県静岡市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	地域資源の活用実感度	単位: %	27	H20	46	H25	30	H25
大目標: にぎわい、ふれあいを感じられる、歩行者を中心とした中心市街地の形成 指標1: 豊富な地域資源を生かした、歴史、文化の香り漂うまちの形成 指標2: 歩行者が安全に、快適に、気軽に移動、滞留できる、回遊性の高いまちの形成 指標3: 県中心部に相応しい商業機能、都市機能を有する、にぎわいに溢れるまちの形成	歩行者空間の快適性実感度	単位: %	45	H20	60	H25	61	H25
	歩行者通行量	単位: 人	464,000	H19	400,000	H25	405,000	H25
	駿府城公園の歴史・文化貢献度	単位: %					64	H25



駿府城公園整備事業
(坤槽 現場見学会)



常葉大学施設整備事業
(イメージ図)



新静岡駅周辺(電線共同溝)
整備事業



紺屋町地下道リニューアル
整備事業



静岡都心公共サイン

まちの課題の変化	(達成されたこと)	<ul style="list-style-type: none"> 駿府城公園の坤槽が整備され、市の歴史拠点として静岡らしさを感じる場を提供している。 静岡市美術館が整備され、市の文化拠点の一つとして市民の文化活動の機会を提供している。 静岡市美術館整備後は商店街との連携を図り、地区内の情報提供や、回遊を促進している。 常葉大学校舎が整備され、新たな文化交流の場が形成された。 駿府城公園や森下公園整備、静岡駅北口駅前広場植栽工事により、市民が憩い、交流する場の充実が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地下道等の歩行者空間のバリアフリー整備により、歩行者が安全かつ快適に移動できる歩行者ネットワークが形成された。 公共サインの設置や地下道整備により、静岡駅からの移動経路の煩雑性が解消された。 歩行者空間の整備や再開発事業の完了により、歩行者通行量が減少傾向から回復し、増加傾向に転じている。
	(未解決の課題)	<ul style="list-style-type: none"> 歴史・観光施設への案内表示が不足しており、地域資源の十分な活用について未解決の課題として残されている。 歩行者ネットワークの形成は進んでいるものの、まちなかにおける休憩施設等、憩いどくつろぎの空間の充実については未解決の課題として残されている。 	
	(新たな課題)	<ul style="list-style-type: none"> 新たに整備された駿府城公園の坤槽の周知・案内を強化し、整備効果を十分に高める方策が必要となっている。 新たな拠点施設が整備される一方で、個性的な個店の減少が見られるため、商都静岡を感じさせる商店街の更なる魅力向上が必要となっている。 	
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 歴史・文化拠点施設におけるイベント・企画の実施により、市民が静岡らしさを感じる場としての強化を図る。 安全で快適な歩行空間の維持を図るため、市民の協力を得ながら歩道上の放置自転車対策や看板等の障害物の配置について指導を行う。 美術館や公園、大学等、拠点施設の継続的な活用を図るため、市民、施設管理者、行政が連携して施設の活用を図る。 歴史資源の案内を強化し、市民や観光客が静岡らしさを感じる機会の増加を図る。 静岡市美術館等の拠点施設や商店街に地区内の情報を掲載した案内マップや広報を配布するとともに、施設間の移動しやすさを向上させる。 商店街の魅力向上に向け、新たな個店の参入や個店の入れ替わり促進に資する地元の取り組みへの支援強化を図る。 歩行者空間における滞留スペースの確保や、ゆったりと回遊することができる空間を整備する。 		

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		指標3「歩行者通行量」 470,000人	指標3「歩行者通行量」 400,000人	モニタリングの結果、計画策定時には予期していなかった景気後退の影響による歩行者通行量の大幅な減少が明らかになったため、減少を加味したトレンドを設定し、目標値を下方修正した。
D. その他(計画区域)	●		250ha	249ha	静岡市中心市街地活性化区域に合わせ、平成22年度に縮小。その後、事業追加に伴い、平成25年度に拡大。

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	静岡駅前紺屋町地区道路整備事業	76.8	L=284m	51.8	L=284m	平成24年度末、事業完了による事業費の確定に伴う減額。	影響なし。	●	
	新静岡駅周辺(電線共同溝)整備事業	—	—	150.7	L=310m	平成22年3月に計画変更して追加。 平成24年度末、事業完了による事業費の確定に伴う減額。	歩行空間の快適性に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
公園	駿府城公園整備事業(第4工区坤櫓)	1,783	A=0.9ha	1,026.4	A=0.9ha	平成24年度末、契約完了に伴い、契約差分の減額。	影響なし。		●
	森下公園再整備事業	—	—	200.0	A=1.2ha	平成22年10月に計画変更して追加。	地域資源の活用実感度に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。		●
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	静岡都心公共サイン設置事業	60.0	—	19.6	—	平成24年度末、事業完了による事業費の確定に伴う減額。	影響なし。	●	
高質空間形成施設	しずまチ地下道内装工事	54.7	A=230㎡	43.0	A=230㎡	平成24年度末、事業完了による事業費の確定に伴う減額。	影響なし。	●	
	紺屋町地下道リニューアル整備事業	—	—	370.6	A=2,160㎡	平成22年3月に計画変更して追加。 平成25年2月、事業完了による事業費の確定に伴う減額。	歩行空間の快適性に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
	静岡駅北口駅前広場植栽工事	—	—	12.2	—	平成22年4月に計画変更して追加。 平成24年度末、契約完了に伴い、契約差分の減額。	歩行空間の快適性に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
高次都市施設									
地方都市リノベーション推進施設(教育文化施設)	常葉大学施設整備事業	—	—	33.8	A=0.9ha	平成25年2月に計画変更して追加。	地域資源の活用実感度に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。		●
既存建造物活用事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
市街地再開発事業	静岡呉服町第一地区市街地再開発事業	—	—	3,415.0	A=0.7ha	平成22年3月に計画変更して追加。 平成25年2月、過年度の事業費の確定による減額。	歩行空間の快適性に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。		●
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業	鷹匠1-14地区優良建築物等整備事業	18000.0	A=1.44ha	470.0	A=1.55ha	平成22年3月及び10月に事業費・事業内容を変更。	歩行空間の快適性に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	静岡市美術館整備事業	3418.0	A=3,400㎡	3,000	A=3,400㎡	平成22年10月、事業完了による事業費の確定に伴う減額。	影響なし。	●	
事業活用調査	市道呉服町通線基本計画策定事業	—	—	10.4	L=225m	平成21年度末に「市道呉服町通線整備事業」を基幹事業へ追加したが、基本計画策定後に地元との調整に時間を要し、計画期間内でのハード整備実施は不可能と判断したため、平成23年度末に事業内容の一部を提案事業に振り替えた。	影響なし。	●	
まちづくり 活動推進事業	(仮称)まちづくり推進事業	40.0	—	1.7	—	平成25年2月に社会資本総合整備計画(効果促進事業)へ移行することによる事業期間の減少及び減額。	影響なし。	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
市街地再開発事業		静岡駅前紺屋町地区	20,000	22,450	平成17～22年度	平成17～22年度	計画通りに完成	
交通結節点改善事業		JR静岡駅前北口広場	3,141	4,460	平成16～20年度	平成16～20年度	計画通りに完成	
交通結節点改善事業		JR静岡駅前南口広場	—	—	—	—	実施時期未定	
道路事業		御幸町鷹匠町2号線	—	—	—	平成22年度	計画通りに完成	
高質空間形成事業		紺屋町地下道内装工事	/	/	/	/	基幹事業へ変更	
市街地再開発事業		呉服町第一地区	/	/	/	/	基幹事業へ変更	
静岡都心地区歩行者優先都市交通環境形成まちづくり推進事業		—	—	—	—	平成21～26年度	事業実施中	
静岡呉服町第二地区市街地再開発事業		—	—	6,300	—	平成23～27年度	事業実施中	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし			
指標1	地域資源の活用実感度	%	-	-	27	H20	46	H25	モニタリング	H23	42	モニタリング	△	●	
									事後評価	確定 見込み	●	30	事後評価		
指標2	歩行者空間の快適性実感度	%	-	-	45	H20	60	H25	モニタリング	H23	46	モニタリング	△		
									事後評価	確定 見込み	●	61	事後評価		
指標3	歩行者通行量	人	469,611	H16	464,000	H19	400,000	H25	モニタリング	H22	360,000	モニタリング	×		
									事後評価	確定 見込み	●	405,000	事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	平成25年7月に実施したアンケートの結果は目標値に達しなかったものの、同年9月に行われた駿府城公園坤櫓工事現場見学会の参加者を対象に同様の質問をした結果、評価値は47%と、目標値を上回る結果となったことから、今年度末の坤櫓の完成が目標値の達成に大きく寄与することが期待されるため、「達成見込みあり」と判断した。	
指標2	平成25年7月に実施したアンケートの結果、目標値を上回る結果が得られているため目標達成とした。	
指標3	景気後退や、事業実施箇所の通行止め等の影響により歩行者通行量が一時的に減少したものの、事業完了後は順調に歩行者数が増加しており、平成25年度もゆるやかな増加傾向が続くものと推測できるため。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
				基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1	駿府城公園の歴史・文化 貢献度	%	-	-	-	-	モニタリング			駿府城公園を訪れている方を 対象に、「歴史・文化貢献度」を 計測することで、駿府城公園が 歴史・文化を感じる地域資源と して活用されていることを説明 する。 64	指標1を補完して、地域の歴史・ 文化資源の活用状況を説明 する。
							事後評価	確定	見込み		
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		
その他の 数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・静岡市美術館の指定管理者が企画しているワークショップや講演会などは、概ね目標以上の参加が得られており、市民の文化活動機会が増加している。
- ・市役所内における横断的な事業検討体制により、活発な議論が展開された。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
指標の達成状況の計測と庁内組織による 検討	予定どおり実施した	●【実施時期】平成23年度 【実施結果】 都市再生整備計画及び個別の核事業の進捗状況の把握 市民アンケート調査の実施 目標値の見直しによる計画変更に向けた対応の検討	他地区の計画や今後策定される計画にお いても、適宜モニタリングを実施していく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
森下公園計画づくりワークショップの開催	予定どおり実施した	●【実施頻度】計4回 【実施時期】平成21年度 【実施結果】 森下公園の再整備について地域住民を対象としたワークショップを開催し、地 域住民の意見を踏まえて整備を行った。	・他の事業においても同様に住民との計画 づくりにより広く情報提供及び意見収集を行 いながら事業を進める。 ・森下公園整備完了後に再度、アンケート調 査を実施する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
森下公園の満足度に関するアンケートの 実施	予定どおり実施した	●【実施時期】①平成22年8月、②平成25年9月 【実施状況】森下公園周辺の住民を対象に実施(回答数:①448人、②51人) 【実施結果】 平成22年度8月時点における森下公園の満足度を調査した結果、全ての項目 で満足度が2割を下回っていたが、平成25年9月実施の満足度調査では、従 前の満足度を大きく上回る結果となっている。	
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
呉服町通りモール化に係る検討	予定どおり実施した	●【実施時期】平成22年度～ 【実施状況】 平成22年度に策定した「市道呉服町通線基本計画」の内容を基に、地元組織 と市が協働で当該路線のモール化の実現に向けた検討を行っており、歩行者 を大切にすまちづくりへの意識の向上が見られる。	モール化の実現に向け、地元の理解を得な がら引き続き検討を進める。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
七間町映画館跡地周辺地区まちづくりガイ ドラインの作成	予定どおり実施した	●七間町の地元有志が立ち上げた「七間町 の明日を考える会」の提言を受け、H23年 度、市や専門家等を交えた研究会を発足 し、ガイドラインを作成した。H24年度から は、地元組織による七間町まちづくり協 議会を発足し、ガイドラインに沿ったまちづ くりの検討を行っている。	・七間町映画館跡地周辺地区のまち づくりに関する研究会 ・七間町まちづくり協議会	引き続き、「七間町映画館跡地周辺地区ま ちづくりガイドライン」を活用した継続的な まちづくりの検討を行う。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
次期計画策定における市民ワークショップ の実施	予定どおり実施した	●		
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 次期計画策定の予定 が無くなったため)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
静岡市都市再生整備計画事業推進本部	本部長：都市局都市計画部長 本部長：総務局危機管理部長、企画局企画部長、財政局財政部長、生活文化局市民生活部長、生活文化局文化スポーツ部長、環境局環境創造部長、保健福祉局福祉部長、子ども未来局子ども未来部長、経済局商工部長、都市局建築部長、建設局土木部長、建設局道路部長、消防局消防部長、上下水道局下水道部長、教育委員会事務局教育部長	第1回：平成25年8月26日 第2回：平成25年11月1日	都市局 都市計画部 都市計画課
駿府ふれあい地区部会 (上記推進本部の下部組織)	部会長：市街地整備課長 部会員：企画課長、文化振興課長、文化財課長、商業労政課長、都市計画課長、交通政策課長、公園整備課長、道路保全課長	第1回：平成25年8月8日 第2回：平成25年10月8日	都市局 都市計画部 市街地整備課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

種別	事業名・箇所名	指標1		指標2		指標3		その他の数値指標1	
		指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	静岡駅前紺屋町地区道路整備事業 新静岡駅周辺(電線共同溝)整備事業 駿府城公園整備事業(第4工区坤櫓) 森下公園再整備事業 静岡都心公共サイン設置事業 しずまち地下道内装工事 紺屋町地下道リニューアル整備事業 静岡駅北口駅前広場植栽工事 (教育文化施設)常葉大学施設整備事業 静岡呉服町第一地区市街地再開発事業 鷹匠1-14地区優良建築物等整備事業	— — ◎ ◎ ○ ○ ○ ○ ◎ ○ ○	駿府城公園の坤櫓の整備や、常葉大学施設整備、静岡市美術館整備等、歴史・文化拠点が整備されたことで、地域資源の活用実感度の改善に寄与した。特に駿府城公園利用者は、地域資源の活用について高く実感している。	◎ ◎ — — ◎ ◎ ◎ ◎ — ○ ◎	従来より取り組んでいる地下道整備や、公共サインの設置によるわかりやすさの向上、新静岡駅周辺の電線共同溝整備事業等の実施により、地区内の快適な歩行空間の連続性が確保されたことにより、歩行空間の快適性実感度が高まった。	◎ ◎ ◎ ○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	世界的な景気後退により、一時的に中心市街地の歩行者通行量が減少したものの、平成23年度以降は、新静岡駅周辺の再開発や公園整備事業、静岡市美術館整備事業等の拠点施設整備と、地下道をはじめとする歩行空間の整備が相互に作用し、歩行者通行量の増加に貢献している。	— — ◎ — — — — — — — —	駿府城公園の坤櫓が整備されたことで、歴史・文化の香り漂うまちの形成に貢献しており、地域の静岡らしさの創出に寄与している。
提案事業	地域創造支援事業・静岡市美術館整備事業 地域創造支援事業・市道呉服町通線基本計画策定事業 まちづくり活動推進事業・(仮称)まちづくり推進事業	◎ — —		— ○ —		◎ ○ —		— — —	
関連事業	市街地再開発事業・静岡駅前紺屋町地区 交通結節点改善事業・JR静岡駅前北口広場 交通結節点改善事業・JR静岡駅南口広場 道路事業・御幸町鷹匠町2号線 静岡都心地区歩行者優先都市交通環境形成まちづくり推進事業 静岡呉服町第二地区市街地再開発事業	○ ○ — — — —		◎ ◎ — ◎ △ —		◎ ◎ — ◎ △ △		— — — — — —	

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	歴史・文化拠点を活用したイベント等の実施により、静岡らしさを感じるまちづくりの更なる向上を図る。	地下道等の歩道の適切な維持管理を実施するとともに、憩いと寛ぎ空間の形成による歩行空間の回遊性の向上を促進する。	更にまち全体の集客力を高めるため、商業施設や文化施設等、施設間の移動の円滑化を図るための施策を進める。	駿府城公園を活用した、歴史・文化を紹介するイベント等を開催し、市民にとって「静岡らしさ」が感じられるまちづくりを進める。
-------	--	---	---	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
静岡市都市再生整備計画事業推進本部	本部長：都市局都市計画部長 本部員：総務局危機管理部長、企画局企画部長、財政局財政部長、生活文化局市民生活部長、生活文化局文化スポーツ部長、環境局環境創造部長、保健福祉局福祉部長、子ども未来局子ども未来部長、経済局商工部長、都市局建築部長、建設局土木部長、建設局道路部長、消防局消防部長、上下水道局下水道部長、教育委員会事務局教育部長	第1回：平成25年8月26日 第2回：平成25年11月1日	都市局 都市計画部 都市計画課
駿府ふれあい地区部会 (上記推進本部の下部組織)	部会長：市街地整備課長 部会員：企画課長、文化振興課長、文化財課長、商業労政課長、都市計画課長、交通政策課長、公園整備課長、道路保全課長	第1回：平成25年8月8日 第2回：平成25年10月8日	都市局 都市計画部 市街地整備課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
<ul style="list-style-type: none"> ■「静岡らしさ」の不足 ■にぎわいの不足 ・歴史拠点としての駿府城公園の再整備の完成により、「静岡らしさ」の充実 ・文化拠点の一つである静岡市美術館の継続的活動と商店街との連携を強化し、「静岡らしさ」の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・駿府城公園の坤櫓が整備され、市の歴史拠点の一つとして静岡らしさを感じる場を提供している。 ・静岡市美術館が整備され、市の文化拠点の一つとして市民の文化活動の機会を提供している。 ・静岡市美術館整備後は商店街との連携を図り、地区内の情報提供や、回遊を促進している。 ・常葉大学校舎が整備され、新たな文化交流の場が形成された。 ・駿府城公園や森下公園整備、静岡駅北口駅前広場植栽工事により、市民が憩い、交流する場の充実が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史・観光施設への案内表示が不足しており、地域資源の十分な活用について未解決の課題として残されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに整備された駿府城公園の坤櫓の周知・案内を強化し、整備効果を十分に高める方策が必要となっている。 ・新たな拠点施設が整備される一方で、個性的な個店の減少が見られるため、商都静岡を感じさせる商店街の更なる魅力向上が必要となっている。
<ul style="list-style-type: none"> ■回遊性の不足 ・安全かつ快適に移動できる歩行者ネットワークが不完全 ・まちなかにおけるくつろぎ、休憩施設の不足 ・駅からの移動経路の煩雑性とそれに対する情報提供機会の不足 ・静岡駅北口周辺整備や紺屋町地区における再開発事業とそれに伴う周辺地下道整備等により回遊性やにぎわいが向上しつつあるが、人口減少傾向期を迎え、全国的にも中心市街地も含めた歩行者空間改善により、歩行者通行量の減少傾向からの回復が大きな課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地下道等の歩行者空間の整備により、歩行者が安全かつ快適に移動できる歩行者ネットワークが形成された。 ・公共サインの設置や地下道整備により、静岡駅からの移動経路の煩雑性が解消された。 ・歩行者空間の整備や再開発事業の完了により、歩行者通行量が減少傾向から回復し、増加傾向に転じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者ネットワークの形成は進んでいるものの、まちなかにおける休憩施設等、憩いとくつろぎの空間の充実については未解決の課題として残されている。 	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	歴史・文化的交流機会の創出	・歴史・文化拠点施設におけるイベント・企画の実施により、市民が静岡らしさを感じる場としての強化を図る。	・徳川家康公顕彰四百年記念事業と駿府城公園や静岡市美術館との連携
	安心・安全な歩行空間の保全・推進	・安全で快適な歩行空間の維持・向上を図るため、適切な維持管理に加え電線類の地中化等を進めるとともに、市民の協力を得ながら歩道上の放置自転車対策等を行う。	・静岡駅南口周辺整備事業 ・まちなか自転車環境の改善

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	静岡らしさの周知・啓発	・歴史資源の案内を強化し、市民や観光客が静岡らしさを感じる機会の増加を図る。 ・静岡市美術館等の拠点施設や商店街に地区内の情報を掲載した案内マップ等を配布するとともに、施設間の移動のしやすさを向上させる。 ・商店街の更なる魅力向上に向けた地元の取り組みへの支援強化を図る。	・路面標示社会実験(短期的施策) ・歴史案内板の設置事業 ・静岡都心地区中心市街地回遊性施策検討業務 ・公共サイン更新事業 ・商店街活性化の支援
	憩いとくつろぎ空間の充実	・歩行者空間における滞留スペースの確保や、ゆったりと回遊することができる空間を整備する。	・呉服町通りモール化事業(検討中) ・まちなか商業空間のモール化推進

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・市民アンケート調査において、「今後のまちづくりに期待すること」について聞いたところ、「まちなか移動中の休憩スペース整備」、「緑あふれる空間の創出」と回答した割合が多かった。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	地域資源の活用実感度	%	27	H20	46	H25	確定 見込み ●	30	△	あり ● なし	→	平成26年6月	市全域を対象とした郵送アンケート調査を実施する。	
指標2	歩行者空間の快適性実感度	%	45	H20	60	H25	確定 ● 見込み	61	○	あり なし	→	-	-	
指標3	歩行者通行量	人	464,000	H19	400,000	H25	確定 見込み ●	405,000	○	あり なし	→	平成26年6月	「平成25年静岡地域中心商店街通行量・お買物調査」における歩行者通行量調査	
指標4				H		H	確定 見込み			あり なし	→			
指標5				H		H	確定 見込み			あり なし	→			
その他の数値指標1	駿府城公園の歴史・文化貢献度	%	-	H			確定 見込み ●	64			→	平成26年4月	駿府城公園の来訪者を対象としたアンケート(聞き取り)調査を実施する。	
その他の数値指標2				H			確定 見込み				→			
その他の数値指標3				H			確定 見込み				→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・数値指標「歩行者通行量」については、静岡商工会議所が実施している既存調査資料を活用したため、交付期間以前(平成16年)からの継続的な状況を勘案した成果の評価を行うことができた。	・継続的に変化を捉えられるデータを用いて指標を設定する ・アンケート結果を指標として用いる場合は、回答者が客観的に答えることができるよう、設問の設定に工夫が必要である。
	うまくいかなかった点	・指標1について市民アンケート結果を用いたところ、設問(歴史・文化などの地域資源が活かされていると思う)が、回答者によって捉え方に違いが出やすい聞き方であったため、「どちらとも言えない」の回答割合が4割を占めており、数値目標の達成に至らず、事業の効果を適切に評価することが難しかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・指標2は、歩道整備等のハード整備事業が順調に進捗しており、事業内容と指標の関係が明確であり、事業の効果をわかりやすく説明することができた。	・アンケート結果に基づく指標は、効果が見えやすい事業と関連付けて設定するよう努める。
	うまくいかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・交付期間の事前、中間、事後と、定期的に住民アンケートを実施したことで、まちづくりに対する市民の意識、意見を把握しながら計画を進めることができた。	・定期的に住民アンケートを実施することで、計画の周知と住民意向の把握を行いながら事業を推進する。 ・継続的かつ横断的な市民参加体制の構築を図る。
	うまくいかなかった点	・個別の事業において住民を交えた説明会や検討会を行っていたものの、地区全体を包括する市民参加機会が不足していた。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・モニタリングの実施により、中間年度における各事業の進捗状況が確認でき、それに伴う指標及び数値目標の見直しができた。	・他地区の計画においても必要に応じてモニタリングを実施する。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の都市再生整備計画の活用予定
「三保半島地区(次期計画)」

・今後事後評価を予定する地区
平成26年度 「東静岡駅周辺地区」
平成27年度 「安倍川駅周辺地区」

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成25年11月18日～12月18日	平成25年11月18日～12月18日	郵送、ファクシミリ送信、電子メール及び市役所都市計画課または各区役所窓口へ直接持参	都市局 都市計画部 市街地整備課
広報掲載・回覧・個別配布	広報に市のホームページで原案を公表している旨を掲載	平成25年11月1日発行 広報11月1日号	平成25年11月18日～12月18日		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	都市計画課窓口及び各区庁舎市政情報コーナーにおける閲覧	平成25年11月18日～12月18日	平成25年11月18日～12月18日		

住民の意見	<p>・ここ数年の変化から歩行者ネットワークの形成が進んでいると感じているが、今後、静岡駅から新静岡駅をつなぐ地下道の設置も検討していただきたい。紺屋町地下道の店舗の活性化や商都静岡の魅力向上、バリアフリー化の面から見ても有効ではないか。</p>
-------	---

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	日詰一幸(静岡大学人文社会学部法学科教授) 室田昌子(東京都市大学環境学部環境創生学科教授)	平成26年1月17日	都市局 都市計画部 都市計画課	静岡市都市再生整備計画事業評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	石上義之(技術士)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・特に意見はなく、方法書に従って事後評価が適切に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・各種事業の実施により市の顔・玄関口づくりが進んでいる。 ・指標3「歩行者通行量」は都市再生整備計画の指標として一般的によく用いられているが、どの地区も数値目標の達成に苦戦しているようなので、回遊性の評価方法としては、滞在時間や行き先などに視点を変えて来訪者の満足度を把握する方法も考えられる。
	実施過程の評価	・特に意見はなく、実施過程の評価は適切に行われたと確認された。
	効果発現要因の整理	・特に意見はなく、効果発現要因の整理は適切に行われたと確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・特に意見はなく、事業評価原案の公表は適切に行われたと確認された。
	その他	・特に意見はなかった。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であることが確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・地域資源が整備されてきているので、観光施策も絡めながらそれらをつなぐ回遊性の強化を図る必要がある。 ・JR静岡駅南口の整備は長年の課題となっているので、今まで以上に力を入れて取り組んでほしい。 ・効果を持続するために継続して実施しなければならない事業もあるので、計画的に事業を進めてほしい。 ・第3次静岡市総合計画(計画期間:平成27年度~)における当該地区の今後の方向性が出されていれば教えてほしい。 →現在検計中であるが、再開発事業は継続して実施する方針である。
	フォローアップ	・特に意見はなく、フォローアップ計画の作成は適切に行われたと確認された。
	その他	・特に意見はなかった。
その他	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であることが確認された。
その他		・特に意見はなかった。

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画

すんぶ
駿府ふれあい地区
(地方都市リノベーション事業)

しずおか 静岡県 しずおか し 静岡市

平成25年2月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

様式1 目標及び計画期間

都道府県名	静岡県	市町村名	静岡市	地区名	駿府ふれあい地区(地方都市リノベーション事業)	面積	248	ha
計画期間	平成	21	年度	～	平成	25	年度	
				交付期間	平成	21	年度	～
							平成	25
								年度

<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ■にぎわい、ふれあいが感じられる、歩行者を中心とした中心市街地の形成 <ul style="list-style-type: none"> ・豊富な地域資源を生かした、歴史、文化の香り漂うまちの形成 ・歩行者が安全に、快適に、気軽に移動、滞留できる、回遊性の高いまちの形成 ・県中心部に相応しい商業機能、都市機能を有する、にぎわいに溢れるまちの形成
<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体のリノベーション方針(都市構造再編を図るため、都市機能の拡散を防止する等の公的不動産のマネジメントも取り組みを含む)</p> <p>本市は平成2年をピークに人口が減少しており、人口減少に対応するための適正な市街地規模を想定した上で、必要な都市機能を適切に集約させ、効率的・効果的な都市構造を構築していく必要がある。中でも、JR静岡駅・静岡鉄道新静岡駅・駿府公園を中心とする静岡中心市街地(駿府ふれあい地区)は、集約型都市構造を構成する最重要の拠点であることから「中心拠点区域」に位置づけ、民間の活力を利用することによって交流人口を増やし、中心拠点地区に賑わいを呼び込むほか、様々な基盤整備を推進することによって、中心拠点地区の活性化を図る。</p> <p>公的不動産の活用策であるが、本市においては、公共施設を中心市街地以外に移転した事例は非常に少ない状況にあるが、今後も都市的機能(公共機能)の中心拠点地区での集積を維持できるよう取り組む必要があることから、老朽化した官民施設の適切な維持・更新を進める。それ以外の地域拠点については、公的不動産を活用し、地域交流センターなどの生活拠点機能の整備を進める。また、特別用途地区においては、一定の規模を超える大規模集客施設の建築を制限する条例(静岡市大規模集客施設制限地区建築条例)を平成23年9月に施行しており、これらの施策により都市機能の拡散防止を図る。</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>平成15年4月1日の合併により誕生した「静岡市」は、静岡県の県庁所在地として政治、経済、文化、教育などの中枢機能が集積する県の中心であるとともに、平成17年に政令指定都市として指定を受け、中部地方の中核を担っている。</p> <p>その中で静岡都心地区は東静岡地区、清水都心地区とともに3つの静岡市の都市核として上位計画等に位置付けており、また、歴史的にも政治経済拠点として機能してきた地区である。そのため現在でも行政、商業、業務等の機能や医療福祉施設、教育施設等の都市機能が多く集積していることから、県内でも有数の賑わいを誇っている。また、駿府公園や常盤公園、青葉シンボルロードなどまとまったオープンスペースを有し、豊かな歴史に培われた伝統資源が豊富であることなど、文化・自然環境面でも充実している。</p> <p>一方で近年の少子高齢化傾向などの商業環境変化、3大都市圏への人口集中傾向の影響もあり来街者の減少や個人商店の減少傾向が見られるなど、地方都市中心部共通の課題を抱えているのが現状である。</p> <p>市では平成16年に「静岡都心地区都市再生整備計画(H16～H20)」を策定し、JR静岡駅周辺における地下道整備や情報提供設備の充実、駿府公園の改修などを実施し、本地区の機能強化や環境改善を図っている。また、その他にも市街地再開発事業による土地の高度利用や大道芸ワールドカップに代表される新たな観光イベント開催など様々な都市再生事業に取り組んでいるところである。</p> <p>一方で、人口減社会への転換期を迎える中、静岡市の総人口及び生産人口は、平成2年をピークに減少に転じ、平成17年には、社会減に転じており、中心市街地の歩行者通行量の減少傾向も回復できない状況にある。</p> <p>更には、世界経済全体として、平成20年9月のリーマン・ショックに端を発し、百年に1度と言われる「世界金融危機」と戦後最大の「世界同時不況」に直面し、我が国においても依然として厳しい状況が続くことが予想され、緊急かつ的確な経済対策が求められている。静岡市においては、平成20年12月に「静岡市緊急経済対策本部」を設置しているが、地域経済力強化等のために、緊急かつ効果的な施策の推進が課題となっている。</p> <p>こうした状況の中近年及び将来の社会情勢変化に対応したまちづくりの実現に向け、市では都心地区に関する次の3つの計画を策定し、都心地区のまちづくりに関する中長期戦略の再編を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都心まちづくりビジョン(H19～検討中)：10～20年後の将来都市構造と将来像 ・都心まちづくり交通計画(H19～検討中)：都市ビジョンの実現に都心地区のまちづくりの推進計画と交通面から支えるまちづくりと一体となった交通計画(10～20年後を目標) ・中心市街地活性化基本計画(H19～検討中)：中心市街地における市街地の整備改善と商業等の活性化の一体的推進 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ■「静岡らしさ」の不足 ■にぎわいの不足 <ul style="list-style-type: none"> ・文化拠点の一つである静岡市美術館の継続的活動と商店街との連携を強化し、「静岡らしさ」の充実 ・歴史拠点としての駿府公園の再整備の完成により、「静岡らしさ」の充実 ■回遊性の不足 <ul style="list-style-type: none"> ・安全かつ快適に移動できる歩行者ネットワークが不完全 ・まちなかにおけるくつろぎ、休憩施設の不足 ・駅からの移動経路の煩雑性とそれに対する情報提供機会の不足 ・静岡駅北口周辺整備や紺屋町地区における再開発事業とそれに伴う周辺地下道整備等により回遊性やにぎわいが向上しつつあるが、人口減少傾向期を迎え、全国的にも中心市街地も含めた歩行者空間改善により、歩行者通行量の減少傾向からの回復が大きな課題である。 <p>将来ビジョン(中長期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■人とのふれあいに溢れるくつろぎ回遊都心地区 <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画マスタープラン(H17)において本地区は、「政令市にふさわしく風格ある景観の形成や商業・業務機能の集積を図り、人々が集い交流するまちづくりを目指す」と位置付けられている。 ・都心まちづくりプロジェクト(H19～)において本地区は、「つなぐ・めぐる・たまるの強化」をコンセプトとし、公共交通軸の強化＝つなぐ、都心内を安心して歩ける＝めぐる、ゆったりくつろげる＝たまるをコンセプトとした快適で魅力的な都市を目指す。 ・現在策定中の中心市街地活性化基本計画において本地区は、「都都静岡 まちなか空間グレードアップ～商業集積とまちのスケールを活かした快適で楽しい都市空間づくり～」をコンセプトに、「人が主役の、憩い・くつろぎのまち」、「人が集まる、魅力・にぎわいのまち」を目標としている。 ・「世界に輝く『静岡』の創造」を支える都市構造・空間づくりに向けて、「静岡都心地区まちづくり戦略」を平成22年9月に策定し、「静岡市民が協働する力と個性を、明日の年づくりに結集し、未来に継承していくために」に「静岡DNAが息づき、人々を刺激する都心」を目指す。 ・静岡を「希望の岡」にスローガンに「静岡市まちなみが戦略プラン」を平成23年10月に策定し、むやみに新しいモノを作るのではなく、もともとある地域資源をした都市ビジョン実現を目指す。

様式2 整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・豊富な地域資源を生かした、歴史、文化の香り漂うまちの形成 「静岡らしさ」を感じさせる歴史、文化資源を活用し、地区の個性、特色を明確にすることにより、静岡県及び中部地方の中心部に相応しい風格と品格を備えた中心市街地を形成する。</p>	<p>■公園：駿府公園整備事業（第4工区坤櫓） □静岡市美術館整備事業 □(仮称)まちづくり推進事業</p>
<p>・歩行者が安全に、快適に、気軽に移動、滞留できる、回遊性の高いまちの形成 安全、快適に、子供から高齢者まであらゆる年齢層や立場の人々が長く滞在しやすくなるというニーズへの対応を目指し、地区内の歩行者を優先的に考える環境づくりを行う。 具体的には道路空間の再構築を第一の目標とし、長く滞在してもらうためにも歩行者と相性のいいまちの環境、装置、しかけ、しくみを構築していく。</p>	<p>■静岡駅前紺屋町地区道路整備事業 ■新静岡駅周辺(電線共同溝)整備事業 ■静岡都心公共サイン設置事業 ■しずまチ地下道内装工事 ■紺屋町地下道リニューアル整備事業 ■静岡駅北口駅前広場植栽工事 □(仮称)まちづくり推進事業 □市道呉服町通線基本計画策定事業 ・(仮称)静岡都心地区歩行者優先都市交通環境形成まちづくり推進事業(関連事業) ・交通結節点改善事業(関連事業) ・静岡駅南口広場整備事業(関連事業)</p>
<p>・県中心部に相応しい商業機能、都市機能を有する、にぎわいに溢れるまちの形成 都市、文化機能を有する魅力的な拠点施設の整備、商業の核となる拠点施設を整備することにより、地区全体の集客力を強化し、地区の活性化を図るとともに、多様な市民ニーズを満足させる地区の形成を目指す。</p>	<p>■公園：駿府公園整備事業（第4工区坤櫓） ■公園：森下公園再整備事業 ■鷹匠1-14地区優良建築物等整備事業(優良建築物等整備事業) ■静岡呉服町第一地区市街地再開発事業 ■地方都市リノベーション推進施設(教育文化施設)：常葉大学施設整備事業 □静岡市美術館整備事業 □(仮称)まちづくり推進事業 ・静岡駅前紺屋町地区市街地再開発事業(関連事業)</p>
<p>事業実施における特記事項</p>	
<p><市民参加によるまちづくりの取り組みについて> ・静岡都心地区において、継続的な市民まちづくり活動を実施できる体制を構築するため、平成20年度より市民ワークショップを開催している。その成果を受け、平成21年度以降もワークショップを引き続き行い、継続的にまちづくりに関する検討を行う。 ⇒□(仮称)まちづくり推進事業</p> <p>【官民連携事業】 ※都市再生整備計画区域内で、道路占有特例、河川敷地占有、歩行者経路協定、都市利便増進協定を活用する場合には記載する。</p>	

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	8,805.2	交付限度額	3947.4	国費率	0.448
うち、社会資本整備総合交付金対象事業 計	8,805.2	うち、社会資本整備総合交付金対象事業 計	3947.4		
うち、地域自主戦略交付金対象事業 計	0	うち、地域自主戦略交付金対象事業 計	0		

(金額の単位は百万円)

事業		事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
細項目	開始年度					終了年度	開始年度	終了年度						
道路	静岡駅前紺屋町地区道路整備事業C	市	直	284m	平成21年度	平成21年度	平成21年度	平成21年度	76.8	51.8	51.8	0.0	51.8	
	新静岡駅周辺(電線共同溝)整備事業	市	直	310m	平成22年度	平成23年度	平成22年度	平成23年度	268.0	150.7	150.7	0.0	150.7	
公園	駿府公園整備事業(第4工区坤櫓)	市	直	0.9ha	平成21年度	平成25年度	平成21年度	平成25年度	1769.1	1026.4	1026.4	0.0	1026.4	
	森下公園再整備事業	市	直	1.2ha	平成22年度	平成25年度	平成22年度	平成25年度	200.0	200.0	200.0	0.0	200.0	
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム														
地域生活基盤施設(情報版)	静岡都心公共サイン設置事業	市	直	—	平成21年度	平成22年度	平成21年度	平成22年度	60.0	19.6	19.6	0.0	19.6	
高質空間形成施設(緑化施設等)	しずまチ地下道内装工事	市	直	230㎡	平成21年度	平成21年度	平成21年度	平成21年度	54.7	43.0	43.0	0.0	43.0	
	紺屋町地下道リニューアル整備事業	市	直	2,160㎡	平成22年度	平成23年度	平成22年度	平成23年度	370.6	370.6	370.6	0.0	370.6	
	静岡駅北口駅前広場植栽工事	市	直	—	平成22年度	平成22年度	平成22年度	平成22年度	16.0	12.2	12.2	0.0	12.2	
高次都市施設														
地方都市リノベーション推進施設(教育文化施設)	常葉大学施設整備事業	民	間	0.9ha	平成25年度	平成25年度	平成25年度	平成25年度	676.3	676.3	33.8	642.5	33.8	
既存建造物活用事業														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業	静岡呉服町第一地区市街地再開発事業	組合	間	0.7ha	平成21年度	平成25年度	平成23年度	平成25年度	14142.0	3415.0	3415.0	0.0	3415.0	
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
バリアフリー環境整備促進事業														
優良建築物等整備事業	鷹匠1-14地区優良建築物等整備事業	民	間	1.55ha	平成21年度	平成23年度	平成21年度	平成23年度	17000.0	470.0	470.0	0.0	470.0	
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型													
	耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計									34633.5	6435.6	5793.1	642.5	5793.1	

…A'

基幹事業②地域自主戦略交付金

事業		事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
細項目	開始年度					終了年度	開始年度	終了年度						
道路														
公園														
河川														
下水道														
合計									0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

※交付期間内事業期間は平成24年度以降を記載

※H24以降を記載

※H24以降分を記載

…A'

基幹事業 総計(①+②)

総計										6435.6	5793.1	642.5	5793.1
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--------	-------	--------

…A=A'+A'

